

視聴覚いしかわ

発行／石川県視聴覚教育協議会
 編集／石川県立生涯学習センター学習情報グループ
 発行人／会長 土室 完
 平成25年3月1日発行

金沢市石引4丁目17-1 石川県本多の森庁舎 石川県立生涯学習センター内 TEL 076-223-9573 FAX 076-223-9585



知識基盤社会における視聴覚教育の課題

－メディアリテラシーの中核としての画像リテラシーの育成－

金沢星稜大学 人間科学部 教授 岡部 昌樹

「高度情報化社会」を表わす言葉として、2000年以降「ICT社会」「ユビキタス社会」が登場し、近年は「知識基盤社会」が使われるようになってきている。この「知識基盤社会」という言葉が最初に使われたのは、OECD（経済協力開発機構）によるプロジェクト「DeSeCo（デセコ）」からである。

「DeSeCo」とは、国際化と高度情報化の進行とともに多様性が増した複雑な社会に適合することが要求される能力概念「コンピテンシー」を、国際的、学際的かつ政策指向的に研究するため、OECDが組織したプロジェクトである。1997年12月から活動を始め、2003年に最終報告を行い研究プログラムを終了した。日本においても、DeSeCoの流れを汲む教育政策が図られている。（编者補足 出展：Wikipedia）

ここでは鍵となる能力として、「相互に作用的に道具を用いる力」、言い換えると「コミュニケーションツールを使いこなす能力」を一番重要な学力であると定義している。情報を収集し、加工し、プレゼンして相手を説得する能力である。（このサイクルのことを「コミュニケーション力」と言い、「プレゼンテーション力」というのはその最終場面のことを言う）これは視聴覚教育が担う分野である。

今日は「情報」で相手を説得する時代となっている。その情報の「見せ方」によって、相手が納得するかどうかが決まる。つまり「ツール」を使いこなし「情報」をうまく扱える人が、相手を説得し勝つことが出来るのである。しかし、相手をどれだけ説得しても、情報の加工の仕方が間違っていたり、元の情報が間違っていたら、または自分の恣意で情報を加工していたら、それは「嘘」をついたことになり、相手を「論破」することにならない。だまされただけである。そういう意味で、「視聴覚教育」というのは非常に重要である。

右の図は、「メディア」と「リテラシー（理解力）」の関係性を表にしたものであり、また「視聴覚教育」「情報教育」「メディア教育」を分けたモデル図でもある。

「メディア」は、必ず「記号」、すなわち「文字／音／映像」といった「情報」を載せ、また表現する「装置」を持つ。そして、その「装置」は必ず「システム」の中で動く。この中で「A-I」の位置が「視聴覚教育」、つまり「記号」＝「文字／音／映像」を活用して教養をつけていく「教養レベル」である。真ん中の「B-II」は、その「機能」と「装置」を生かしていく「情報教育」である。コンピュータを活用して、その機能を生かして、情報処理をしていく。つまり「視聴覚教育の情報処理」である。そして、「視聴覚教育」は基本操作であり、「情報教育」は情報の中身である。「C-III」は、それを活かす、「システム＝世の中」をより科学的に、「批判＝論理的」に考察する力をつける。これが「メディア教育」である。

さて、現代は「画像（映像）」が情報の中心となっている。画像に対してはちゃんとしたりテラシー（理解力）が必要である。「メディアリテラシー」とは「メディアを理解する力」であり、メディア教育・視聴覚教育そのものである。そしてその最終目標は、「論理的（批判的）に情報を読み解く（Logical (Critical) thinking)」「情報を鋭く見抜く（Insight ability）」能力を身に付けることである。（平成24年度視聴覚セミナー講演より要約）

メディアとリテラシーの関係性

Media	Literacy	I	II	III
		Sophistication (教養)	Function (機能)	Criticism (批判)
A	Sign (記号)	A-I	A-II	A-III
B	Equipment (装置)	B-I	B-II	B-III
C	System (システム)	C-I	C-II	C-III

メディアとリテラシーの関係性 ©岡部昌樹

第16回視聴覚教育総合全国大会・第63回放送教育研究会全国大会合同大会（東京大会）に参加して

県立生涯学習センター 学習情報グループ 小森 智寿

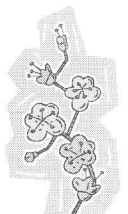
平成24年8月2日・3日の両日、東京都渋谷区にある国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて第16回視聴覚教育総合全国大会・第63回放送教育研究会全国大会合同大会（東京大会）が開催されました。

1日目のテーマ別研究交流会では「明日を活かすメディア・コミュニティを考える」をテーマに発表があり、富山県映像センターからは、映像について「学ぶ」「作る」「いかす」「集める」をテーマに動画制作やインターネット配信などの取り組みが、また大分市情報学習センターからは、ICTボランティア育成し、受講終了者が新規受講者をフォローするなどの取り組みが紹介されました。

2日目は「デジタル化への展望～視聴覚ライブラリのネクストステージ～」と題し、青森県総合社会教育センター、埼玉県春日部市視聴覚センター、千葉県総合教育センターから、16ミリフィルムのデジタル化等について発表がありました。

これらの発表には参考とすべき点が多く、特にインターネットの活用については当センターでも講座映像配信については新年度から取り組んで行くこととなり、多くの方に視聴いただき「いつでも」「どこでも」「誰でも」学べる環境づくりをしていきたいと思っています。皆様、是非ともご活用くださるようお願いいたします。

また、今後の課題として県内外多方面から様々な映像資料を収集・保存し、公開・活用していきたいと一計を案じています。



平成24年度石川県視聴覚教育協議会の活動について

石川県視聴覚教育協議会は、本県の視聴覚教育の振興発展に寄与することを目的とし、県及び市町教育委員会の視聴覚教育担当部局をもって組織され、視聴覚教育に関する研究奨励及び指導者研修、学習情報の交換のための事業等を行っています。

平成24年度の活動内容を紹介します。

平成24年度 総会・視聴覚セミナー

○平成24年度 役員一覧

会長	土室 完	石川県立生涯学習センター館長	理事	今村 昌史	石川県教育委員会生涯学習課	
副会長	三浦 光雄	七尾市教育委員会教育長	監事	岩上 涼一	内灘町	
参与	坂井 芳子	石川県教育委員会生涯学習課長	〃	山崎 京子	野々市市	
理事	大畑 幸夫	能登町	事務局長	竹内 裕之	生学セ・学習情報グループリーダー	
〃	西 明彦	羽咋市	事務局	事務局員	小森 智寿	生学セ・学習情報グループ
〃	今井 信也	金沢市		〃	山本 孝志	〃
〃	山本 忠浩	川北町		〃	菊池 夕子	〃

※副会長は、H24.12.21付七尾市教育委員会教育長異動に伴い、近江 一芳氏に交代となっています。

平成24年6月7日（木）、石川県本多の森庁舎において平成24年度理事会及び総会が開催されました。

総会では、議長に金沢市の今井 信也氏を選出し、議案審議の結果、平成23年度事業・決算及び平成24年度事業計画・予算案、並びに会則の改正が承認されました。

総会に引き続き視聴覚セミナーとして、金沢星稜大学人間科学部の 岡部 昌樹 教授による「知識基盤社会における視聴覚教育の課題 ～メディアリテラシーの中核としての画像リテラシーの育成～」と題した講演会を実施しました。



情報技術活用研修会

平成24年度は、次の3市町から申請のあった「IT講習」等の事業について、費用の助成を行いました。

主体名	研修会名(内容)	開催日	場所	参加人数(延べ)
金沢市	PCスキルアップ研修 (市立小中学校職員・保育士の使用するソフトの技術講習)	平成24年9月12日～12月20日	金沢市教育プラザ富樫	199人
かほく市	iPad講座	平成24年6月29日	かほく市七塚生涯学習センター	7人
内灘町	親子パソコン教室 (フォトレタッチソフトを使ったオリジナルうちわとカレンダー作り)	平成24年7月23日～7月25日	清湖小学校	30人

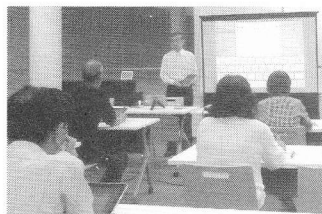
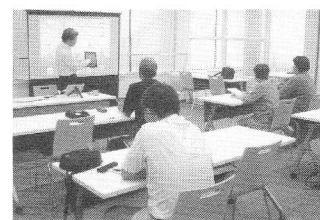
かほく市公民館講座《iPad講座》開催

かほく市教育委員会生涯学習課

市民の皆様の「知りたい!」「学びたい!」という思いに応える『かほく市公民館講座』の1つとして、『iPad講座』を開催いたしました。

パソコン、携帯電話、その他の新型携帯端末など、情報通信機器やその活用方法は、時代の流れ同様、目まぐるしい速さで進化しています。

今回は、その中からタブレット端末『iPad』を取り上げ、概要、基本操作方法のほか、デジカメ写真、音楽・ビデオ鑑賞等の操作方法について、プロジェクターも用いて講習しました。



参加者の皆様は中高年世代が中心となったこともあり、初めは操作方法に四苦八苦している姿も見られましたが、先生のきめ細かなレクチャーと参加者の熱意により、講座を終える頃には基礎知識をしっかりとマスターされた様子が伺えました。

当市の公民館講座は「地域の人たちとのふれあい」とのテーマのもと開催した面もあり、参加者の皆様にとって、今後ご家族、お孫さん、地域の人々と交流する新たな情報手段となること、また、当講座がその橋渡しを担えれば幸いです。

ICT（情報技術）活用講座

この講座は、市町や学校・団体等の視聴覚担当者、学習担当者、公民館職員などを対象に行う講座です。

第1回 「2日のできる！初歩からのブログ活用術」

開催日：平成24年8月28日（火）～29日（水）

講師：Officeアシスタ 山川 広美 氏

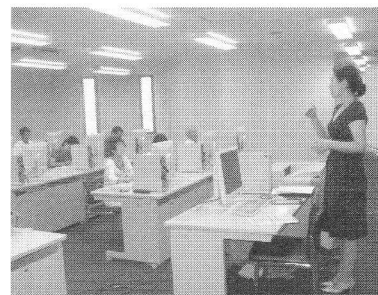
会場：石川県本多の森庁舎パソコン室

参加者：公民館、図書館、各種団体職員等 14名

「いつでも、どこでも、携帯電話からでも」簡単に情報発信できるブログを、広報のツールとして活用できるよう、基礎から学んでもらうことを目的に開催しました。

公民館・図書館職員のほか、幼稚園やボランティアサークル、町内会役員の方など14名が、ブログの開設方法から記事の作成、魅力的な運用のコツ、情報発信のマナーや注意点などを、2日間に渡って熱心に受講されました。

受講生からは「わかりやすく教えてもらえた」「さっそく広報に利用したい」といった声が聞かれました。



第2回 「TV番組を作るといふこと」(「いしかわビデオ作品コンクール」発表会記念講演)

日時：平成25年3月5日（火）13：30～

講師：北陸放送(株)制作部 ディレクター 大西 宏和 氏

会場：石川県本多の森庁舎2階第3会議室

県民映像カレッジ

広く一般県民の皆さんに、映像作品制作に興味をもってもらい、ビデオの撮影・編集の技術を学んでいただく講座です。(石川県民大学校 情報・科学コース講座)

なお、この講座は、生涯学習センタービデオクラブ（SVC）の協力のもと実施しています。

第1回：基本コース

開催日：平成24年6月8日～7月13日の毎週金曜日 全6回

場所：県立生涯学習センター県民大学校教室ほか

講師：小林 陽治 氏ほかSVC会員の皆さん

参加者：13名



基本コースでは、初心者の方を対象に「ビデオの撮影基礎から、初歩のビデオ編集が出来るようになるまで」の講習を行いました。

受講生は、カメラワークの基本や、より見やすい撮影をするための注意点を教わった後、「新緑」をテーマにした金沢神社での撮影実習・パソコンを使った編集作業を行い、初歩的な映像作品づくりの課題に取り組みました。

最後に完成した作品の上映を行い、ビデオ撮影・映像作品づくりの楽しさを感じていただきました。

第2回：編集コース

開催日：平成24年10月11日～25日、11月8日～15日の各木曜日 全5回

場所：県立生涯学習センター県民大学校教室ほか

講師：岡野 重和 氏ほかSVC会員の皆さん

参加者：8名

編集コースでは「より一歩進んだ映像作品づくり」をめざし、ノンリニアビデオ編集ソフトを使った編集・作品づくりの講習を行いました。

撮影・編集について基礎からおさらいし、あらかじめ用意された映像素材から受講生各自がそれぞれ作品を作り上げ、最後に上映会を行いました。受講生は、講師をはじめSVC会員の皆さんから、たくさんの講評・アドバイスを受け、充実した講座になりました。

☆ビデオ編集室の機材、無料で使えます！ —石川県立生涯学習センターからのお知らせ—

県立生涯学習センターでは、ビデオ編集用パソコンを一般県民の皆様にも無料開放しています。

(台数：2台、CPU：Core i5、編集用ソフト：Edius Neo 3)

HDデジタルビデオカメラ規格（AVCHD）やDV規格のビデオカメラにも対応しており、作品をDVDやBlu-rayディスクに書き込むことも出来ます。（カメラと接続ケーブル、カメラの電源、メディアはご持参下さい。）

ご利用希望の方は、県立生涯学習センター学習情報グループ（076-223-9573）までご相談下さい。

平成24年度（第43回）いしかわビデオ作品コンクール

共催：石川県教育委員会
 後援：石川県小・中学校視聴覚教育研究協議会
 石川県高等学校視聴覚教育研究会
 石川県社会教育協会／石川県公民館連合会

今年度、応募期間を平成24年12月1日（土）～平成25年2月1日（金）とし、①教材部門、②一般部門の2部門で募集をしたところ、①教材部門4点、②一般部門16点の応募がありました。

なお、審査は2月15日（金）に県立生涯学習センターで行われました。

審査講評

ビデオカメラは、デジタル放送の開始とともにアナログからデジタルへと進歩し、鮮明な画質が得られるようになりました。そのためか見る側も画面の鮮明さに惑わされて、つい評価の判断を見誤ってしまうことがあります。しかし、今回の授賞作品は、画質の鮮明さ以上に見終わった後、「よかった」と、心に咬いてしまうような感性を感じました。撮影、編集もさることながら、企画とストーリー性がうまくかみ合っていたと考えられます。教材部門、一般部門の最優秀賞、優秀賞作品はそんな作品でした。また、奨励賞作品は撮影、表現において大変豊かな感性を感じることができました。なお、全作品の評価において大きな開きはありませんでしたので、次回の頑張りに期待します。

（審査委員長 棒田 邦夫）

審査委員

審査委員長	棒田 邦夫	金沢学院大学教授
委員	勝田 敏夫	メディアアドバイザー
〃	今村 昌史	県教委生涯学習課
〃	土室 完	県立生涯学習センター館長

審査結果

①教材部門		
最優秀賞 <small>(石川県教育委員会賞)</small>	涙	(能美市)宿谷昭之助
優秀賞 <small>(石川県公民館連合会賞)</small>	記念誌づくりに挑む	金沢市城南公民館
奨励賞	生きる	小松市立国府中学校保健委員会
〃	金沢カレーの作り方	石川県立工業高等学校放送部
②一般部門		
最優秀賞 <small>(石川県教育委員会賞)</small>	県工かるた	石川県立工業高等学校放送部
優秀賞 <small>(石川県社会教育協会賞)</small>	御願神事（竹割りまつり）	生涯学習センタービデオクラブ
奨励賞	若衆の絆	(金沢市)高島 良夫
〃	櫻生水	(金沢市)小林 陽治
〃	やっぱり桜はスゴイ！	(金沢市)小屋 忠男
〃	もうひとつの我が家	(金沢市)藤平田友市

石川県立生涯学習センターからのお知らせ

県民企画展示（マナビィーコーナー）

展示作品募集！

会場無料提供

皆さんの作品を展示してみませんか？

生涯学習成果の発表の場や交流の場として、展示コーナーを**無料**で提供しています。

手づくり作品等の展示や研究発表、交流の場として、是非ご活用下さい。

- ・展示期間：2～4週間まで
- ・開館時間：9:00～18:00 ☆土日祝日も開館します。
(年末年始は閉館となります。ご了承下さい。)

・展示できるもの

絵画、陶芸、書、写真、俳句などの生涯学習成果の作品展示、児童生徒の研究発表の発表など。

展示は当センターのHPでも紹介します。

※非常利かつ非宗教で、公序良俗に反しない展示に限ります。

・申し込み方法、その他お問い合わせは…

076-223-9574 までお電話下さい。

※事前に展示希望期間の空きのお問い合わせをお願いします。

視聴覚ライブラリーでビデオを借りませんか

視聴覚教材（VHS・CD・DVD・16ミリフィルム）の貸出を**無料**で行っています。

- ・対象 県民の方々（高校生以上）
- ・期間 1週間
- ・本数 1回5本（枚）まで



※ご利用には会員登録（無料）が必要です。

なお、16ミリフィルムの貸出は、映写機操作技術認定を受けた方が所属する団体に行っています。（映写機も貸出可）

☆どんなビデオがあるかは、『あいあいネット』でcheck!

URL <http://iinet.pref.ishikawa.jp/>

ジャンル別・キーワードで教材を検索できます。

☆「あいあいネット」は、県内の生涯学習情報をインターネットで提供するシステムです。講座・講演会の情報を知りたい、講師を探したい、視聴覚ライブラリーの収蔵作品を調べたい時は、ぜひご活用ください。



QRコード
スマートフォン用

お問い合わせ先：石川県立生涯学習センター（生涯学習情報センター） 〒920-0935 金沢市石引4-17-1 石川県本多の森庁舎2階

TEL：076-223-9574 FAX：076-223-9004 最寄りバス停：北鉄バス「出羽町」もしくはふらっとバス「本多の森ホール」